

# 第 1 回中学校におけるこれからの部活動の 在り方を考える有識者会議 議事要旨

日 時：令和 7 年 11 月 11 日（火曜日） 午後 1 時から午後 3 時まで  
会 場：都庁第二本庁舎 31 階 特別会議室 27  
出席委員：10 名（代理出席 2 名）

## 1 開会

- (1) 東京都教育委員会挨拶
- (2) 座長選出  
委員の推薦により、松尾哲矢委員を座長に選任
- (3) 副座長選出  
委員の推薦により、佐藤浩委員を副座長に選任

## 2 趣旨説明

- (1) 有識者会議の趣旨及び目的
- (2) 有識者会議における検討内容及び言葉の定義

## 3 委員紹介

## 4 概要説明

- (1) 国の動向
- (2) 東京都の現状と取組

## 5 協議

協議テーマ「中学校におけるこれからの部活動の在り方について」

### (1) 改革推進期間の部活動改革の取組等について

- ・一般社団法人を新たに設け、協力企業と連携をして、今までの学校部活動では体験できなかったような新たな種目を作って、地域展開に向けて活動している区もある。子供たちが学校生活や普段の部活動では体験できない活動が選択できるようになり、子どもたちや保護者のアンケートからは、良くなったというような話も聞いている。
- ・指導者確保のため、参加生徒保護者から受益者負担を集め、コーディネーターを雇用し、そのコーディネーターが指導員を派遣する仕組みを導入している。
- ・地域スポーツクラブとして一般社団法人を設立し、中学生が部活動ではできない種目を取り上げ

て、多様な活動機会を確保する取組を実施している。

- ・部活動の地域展開を支えるための、最新の国際基準に基づいた指導者養成プログラムによる指導者の養成やコーディネーターの養成、そしてマッチングシステムの開発に取り組んでいる。
- ・合同チームや拠点校方式、地域クラブ活動など様々な形での大会参加を認め、中学生の実践の場を確保できるようにしており、部活動以外の団体の大会参加も広がりつつある。
- ・例えば中学校演劇の都大会では、地区の中に1チームしかなく、都大会に参加するための地区大会が組織できないところもあるため、3つぐらいの地区が合同で地区大会を行う等、大会運営の工夫を行っている。
- ・部員不足によって、学校単位で大会参加ができない小学生、中学生に参加の機会を広げるため、合同バンドや地域クラブの参加を認めるための、大会実施規定や参加資格、形態などの見直しを行った。
- ・地域にボランティア組織を作成したり、大学と連携したりするなど、部活動指導員や外部指導者の方々に、技術的なことも含めて指導を任せられることで、教員の負担がとても減ってきている。
- ・ろう学校の指導者は、コミュニケーションで手話等の専門性が必要になるため、一般的な外部人材を募集するのは難しい部分もあり、卒業生を活用しながら指導を行っている。
- ・市内で、一つの学校を拠点校とした活動をスタートさせた。課題としては、生徒への連絡体制と移動手段が大きい。
- ・現在勤務する区では、「区の部活動」を設置している。一つの中学校を拠点校として、会場を提供し、土曜日の午後は中学校に区から子供たちが集まってきて活動をし、平日は移動が難しいため、オンラインで活動する取組を進めている。学校で、1つ部活動を新しく作ることは非常に大変なため、このような活動によって、生徒たちの活動できる場ができたことは、とてもよい。
- ・教員、先生方に顧問をしていただいているが、専門ではない場合が多々あり、子供たちのスキルやモチベーション向上につながらないことが多々ある。部活動指導員など、スキルのある方が導入されるということは、保護者にとっても有難いことであり、それが子供たちのモチベーション、スキルアップにも良い影響がある。一方、部活動の地域展開に関しては、更なる認知度の向上が必要だと感じる。

## (2) 部活動の教育的意義と課題の再考

- ・地域展開がスムーズに進んでいる自治体と、予算面や受け皿の問題でなかなか進んでいない自治体もある。また、活動の主体が外部指導者や事業者に移った際の、規律やマナー、道徳心、生徒指導等も含めた全人教育的な教育的意義の継承は課題である。
- ・自治体によって、財源の確保が難しいのではないかと話が議論に上がる。また、財源が仮に確保できたとしても、全ての部活動を賄うだけの人材を確保できるのかが課題になる。教育委員会だけではなく、自治体全体で、どういう子供たちを育てていくのかというビジョンをもって取り組む必要がある。
- ・学校の部活動が減って地域クラブチームが増えてくると、今まで学校の顧問の先生が担っていた大

会運営が心配である。一方、子供たちの活動する場、発表する場は確保していきたいと考えている。

- ・地域クラブが中心になっていった場合に、大会を運営する母数が減っていくことが大きな問題になってくる。今年度、全国中学校総合文化祭では、NPO 法人との共同開催という形での大会運営を初めてやってみたが、多様な人材が中に入ってきて、閉会式に地域の高齢者と子供たちの合唱団の合唱が入るなど、これまでとは違う大会となった。今後も、様々な地域のリソース借りながら、大会運営を持続していくような工夫も行っていきたい。
- ・校舎内を活動場所とした場合、会場のセキュリティ、平日活動場所への移動で減少してしまう活動時間、用具、費用負担等、様々な課題があり、地域展開をしていくことについて、非常にハードルが高いと感じている。
- ・一人一人の生徒に対する、多面的な理解などの日常的な取組が、今の部活動の教育的意義を作っていると感じる。地域スポーツクラブだからできないということではなく、生徒の多面的な姿を学校と地域で情報共有し、そのような関係性をしっかり作っていく必要がある。
- ・部活動の意義は、体力や技能の向上だけではなく、社会性の向上という意義がある。また、異学年の交流による協調性や、自己肯定感、達成感の育成、卒業後の余暇活動や地域参加へのきっかけにもなっていくと考える。特別支援学校の場合には、部活動を通して公共交通機関の利用など自立支援ということも非常に大きな意義として感じている。
- ・日常の学校生活と部活動をトータルして、生徒の様々な活躍を多面的に捉え指導できるメリットがある。地域展開によって、部活動が学校から離れてしまった時に、一人の子供に対しての、様々な情報がどこまで連携できるかということについて課題がある。
- ・子供にとって、部活動への関心というのは、依然として高いものであり、その部活動を通しての仲間との関わりも、成長過程で、とても大事なものだと思っている。また、悩みや困難を抱える子供たちにとっても、部活動は、居場所づくりにもなっており、福祉的な役割としても大切である。

### (3) 東京都の中学校におけるこれからの部活動の在り方について

- ・子供たちの活動の機会が消失するようなことはあってはならないと感じる。子供を第一に考え、教員の負担軽減も行ってもらいたい。
- ・部活動が存続しない、活動の機会が与えられない場合には、改革を進めていかなければならないが、全てをこの期間までに一斉にというのは難しい。状況や必要性に応じて進めるようにしていただきたい。また、様々な事情で無理に顧問をお願いするということのないようするとともに、部活動の顧問をやりたいという教員がいるということも踏まえた改革が必要である。
- ・教育的意義を考えた時、学校教育がどこまで、どのように係するのか。併せて教員の働き方改革をどのように推進していくのかということが重要である。また、地域展開を進められるところは進め、地域展開が難しい種目・分野や地域は、地域連携も必要であるとする。部活動の設置数が多い種目や分野は、すぐに地域へ移行するのは難しい部分もあるので、都がしっかりと、方向性や方針を示すと、区市町村も取り組みやすい。

- ・教育委員会と首長部局が連携しながら、自治体の子供たちをどう育てていくのかを、しっかりと抑えて、財源やランニングコストも含めてどのように取り組むかを見付けていく必要がある。地域展開した場合、例えば土日にトラブルが発生した場合、その日のうちに解決できるものもあれば、解決できないものもある。未解決のまま、問題が大きくなる可能性がある。様々なことを考えながら進めていかないと、少しの歪みが大きな亀裂になる可能性もある。
- ・学校から部活動を切り離してくというのはなかなか難しいと考えている。移動距離や、学校の先生、友達と一緒に活動したいという子供たちの思いも踏まえて、平日と土日の活動を工夫していきながら、拠点校のような効率よく活動できる方法を上手く組み合わせていくというのは、1つの工夫として考えられる。学校の教員の関わりと、地域の力を借りるところとを組み合わせ、進めていくような形になるのではないと考えている。
- ・地域によっては、企業や大学等の有無が異なるため、地域展開を改革実行期間の中で、全ての競技を、全ての地域で実施するのは難しい。部活動を楽しみにしている生徒の思いと、教員の働き方改革、負担軽減も考えていかなければいけないので、どちらかという簡単な結論にはならないと思うので、期間をかけて、様々なところで変わっていくしかないと思う。
- ・地域に様々頼むとしても、専門性が必要になってくる場所もあるので、その専門性を地域でうまく生かすことができるかどうかは、地域の実情や人的・社会的な資源が関わってくると思う。部活動と地域スポーツクラブとの連携を少しずつ模索しながら進めていくことができればよい。
- ・部活動指導員の拡充などの負担軽減策は、一律の対応ではなく、学校の実態に応じて弾力的に扱えるようにするとよい。
- ・人的な配置、兼業・兼職、教員の異動制度等を整えながら、教員の負担軽減をしていくような方法をとることができればよい。改革を一律で進めるのではなく、子供たちのためになる東京都ならではの取組を示していただけるとありがたい。
- ・地域連携、地域展開というのは、そもそも目的ではなく方法論であると受け止めている。何よりも子供第一に考え、改革を進めていくということが大事であると改めて考えさせられた。生徒は運動やスポーツを多様な観点で捉えて、自分の興味・関心に応じた関わり方を学習しているので、そういったことも踏まえながら、長いスパンで考えていく必要がある。地域の特徴も踏まえ、実態に応じた改革の在り方が求められていると感じた。

#### (4) 協議のまとめ（座長）

- ・プレーヤーズセンタードの考え方で、子供たちを真ん中において、しっかりと支える。周りの人たちも連携を図り、お互いが高まり合うような関係づくりが重要である。
- ・地域展開と地域連携をバランスよく、東京都らしい、地域が弾力性をもった取組を進められるよう、丁寧に検討する必要がある。
- ・東京都としてのガイドライン、推進計画の作成の必要性について、委員から意見があったことを受け、検討いただきたい。

## 6 事務連絡

### 第2回について

- ・第2回有識者会議は12月中旬頃を予定
- ・第1回の委員の意見を踏まえた東京都のガイドライン構成案、推進計画の骨子案を示し検討

## 7 閉会

### 東京都教育委員会挨拶

- ・部活動が、中学校はもとより、様々な校種において、日本の文化として、いかに定着して根付いているか強く感じた。子供たちのために第一であるが、その裏側で働き方改革をどのように取り組んでいくか考えていかなければならない。
- ・地域か学校か、部活動か地域クラブ活動かという二項対立ではない、いかにいい形でフォーメーションを作り上げていくのが重要である。
- ・委員から御意見をいただき、1つの方向性を打ち出さないといけないと考えている。東京都らしい、できれば東京ならではのレベルにもっていくべく、努力を真摯に続けて、次回に臨みたい。